

一部地区の旬をPR 秋の賞味会

地域で採れた季節の食材を味わってもらおう賞味会が、11月24日二部公民館に隣接するたたら会館で開催されました。
この賞味会は、一部地区の活性化を目的に、二部地区活性化推進機構が毎年実施しています。

今回の賞味会では、栗やしいたけを使ったおこわや、銀杏・もみじの天ぷら、松茸の吸物など地元で採れた旬の食材を使った料理全11品が提供されました。参加者は、推進機構の会員らと会話を楽しみ、「地元で採れた食材を、ここまで活かした料理は素晴らしい」、「とてもおいしくいただきました」と料理を堪能した様子でした。



二部の食材を堪能する参加者

火災を発生させない町を目指して 消防非常呼集訓練



火点へ向け放水する消防団員

秋季全国火災予防運動に合わせ、住宅火災を想定した非常呼集訓練が、11月13日に遠藤集落内で行われました。

非常呼集訓練は、消防団員の初動体制の確認と消防技術の向上、各関係機関との連携確認を目的に、毎年実施されています。

今年は、遠藤集落の住宅で火災が発生し、周辺に燃え広がったことを想定して訓練が行われ、伯耆町消防団・遠藤自衛消防・米子消防署伯耆出張所から68人が出動しました。消防団員は慣れた手つきでホースを広げ、火点へ向け消火活動を行いました。

伯耆町消防団の木村浩団長は、「これから空気が乾燥し、火災が起きやすくなる。火災を発生させない伯耆町を目指し、啓蒙活動をしっかり行ってほしい」と団員に呼びかけました。

様々なイベントで駅前を盛り上げる 岸本きないや祭

岸本きないや祭が、11月19・20日の2日間開催され、岸本公民館や岸本駅前通りは大勢の人で賑わいました。今年で26回目を迎えるこの祭りは、鎌やクワなどの農具を販売する吉長市が始まりですが、現在では駅前や岸本公民館などで様々なイベントが開催される祭りに変化しています。

岸本公民館や岸本町民体育館では、保育園児や小中学生の作品や公民館教室・サークルの作品などが展示されたほか、岸本図書館による絵本の読み聞かせが行われました。また、岸本八郷小学校6年生による「こどもみこし」3台が会場内を練り歩き、多くの来場者から声援を受けていました。

2日目は、あいにくの雨模様となりましたが、多くの来場者で会場周辺は大いに賑わいました。



絵本の読み聞かせ「おはなし会」

豊かな森を次世代へ 第12回森林シンポジウム

森林の大切さを考える森林シンポジウムが、12月3日、農村環境改善センターで開催され、町内外から約100人が参加しました。

本シンポジウムは、伯耆町豊かな森づくり実行委員会が毎年開催していましたが、今年には全国植樹祭鳥取県実行委員会と共催しました。それは2013年春に鳥取県内で開催される全国植樹祭を盛り上げるのが目的で、シンポジウムの中で、植樹祭シンボルマークの愛称表彰式とみどりの少年団への苗木引渡式を行いました。

続いて、岸本中学校2年生による森林職業体験感想発表が行われ、その後、パネル討議が行われました。パネル討議では、新日本海新聞社の寺谷寛常務取締役西部本社代表をコーディネーターに、智頭町森のようちえんまるたんぼうの西村早栄子代表、賀露おやじの会の丹羽健司事務局長、鳥取大学農学部の本福壽教授の3人が、「豊かな森林を次の世代に引き継いでいくために」をテーマに持論を展開しました。



意見を交わすパネリスト(左から西村代表、丹羽事務局長、山本教授)

伯耆町の特産品で受賞

第41回鳥取県花き品評会が、11月11〜13日倉吉末来中心で開催され、富江の遠藤達也さんが、最も優れた作品に贈られる「農林水産大臣賞」を受賞しました。

鳥取県花き品評会は、県内で生産される花きの品質改善や生産技術の向上、栽培意欲の向上などを目的に、鳥取県花き振興協会が毎年開催しており、今年にはキクやバラなど134品の出品がありました。

農林水産大臣賞を受賞した遠藤さんの花は、花びらがフリルの形をしているパンジー。この品種は花



町長に受賞報告をする遠藤さん(中央)と神庭さん(右)



遠藤さんのパンジー

賞	受賞者氏名	品目
農林水産大臣賞	遠藤 達也さん	パンジー
農林水産省生産局長賞	神庭 賢暁さん	ストック
東亜青果賞	田辺 和伸さん	キンギョソウ

の茎が伸びやすいのが特徴ですが、遠藤さんのパンジーはコンパクトにまとまり、バランスが良く、商品性が高いと評価されました。遠藤さんは「一般家庭に、良い花を植えてもらえるよう、良いものを生産していきたい」と今後の抱負を話しました。

また、今回の品評会では、畑池の神庭賢暁さんが農林水産省生産局長賞を、殿河内の田辺和伸さんが東亜青果賞を受賞。伯耆町からみごと3人の方が入賞されました。

受賞された皆さま、おめでとうございます。